

○全体指導者(施設)からの支援

事前指導

施設の提供(実施できる活動、宿泊先等)
学校のねらいに沿ったプログラム(案)の作成・提案
プログラム・全体計画の作成 への助言
事前学習への協力(活動に関する情報提供・助言)
施設の活動場所の案内
危機管理体制の整備に対する助言
保護者説明会での補助
学校との連絡・調整(活動・宿泊の申込)
指導者間での情報共有
(ねらい・役割の確認・明確化、活動の提供方法の工夫等)

当日指導

プログラムの進行状況の把握
各活動の導入やまとめ(担当部分)
学校の先生との進捗状況の確認
活動の指導又は指導補助(担当部分)
教材、道具の提供
安全管理

事後指導

事後学習への協力
評価(児童の評価、活動の評価)への協力

○学校からの声

事前打合せ

・子どもの実態を分析して共通理解、そこからねらいを定めてプログラムをすることで、活動に1本の筋を通すことができて良かった。
・外部講師の方も来て下さり、子どもたちとの出会いができていたので、当日の活動がスムーズに行えた。
・保護者説明会にも自然の家の職員の方が来てくださったので、保護者の不安を軽減できた。

実施

・自然の家の職員の方が全てのプログラムに関わってくれたことで、安全面の確保ができたこと、それぞれの活動のプロの方による指導で奥深いねらいに沿った活動ができたこと、長期宿泊体験活動の実施において他校でも課題となっていた職員の負担を軽減させることができたこと、などが良かった。
・当日の児童の様子に応じて、プログラムの変更ができたことでよりねらいに迫る活動ができた。
・プログラムにゆとりがあったので、ひとつひとつの活動をじっくり取り組むことができた。

●福山市立旭丘小学校 5年生 62名 平成22年7月26日～29日

当日までの流れ

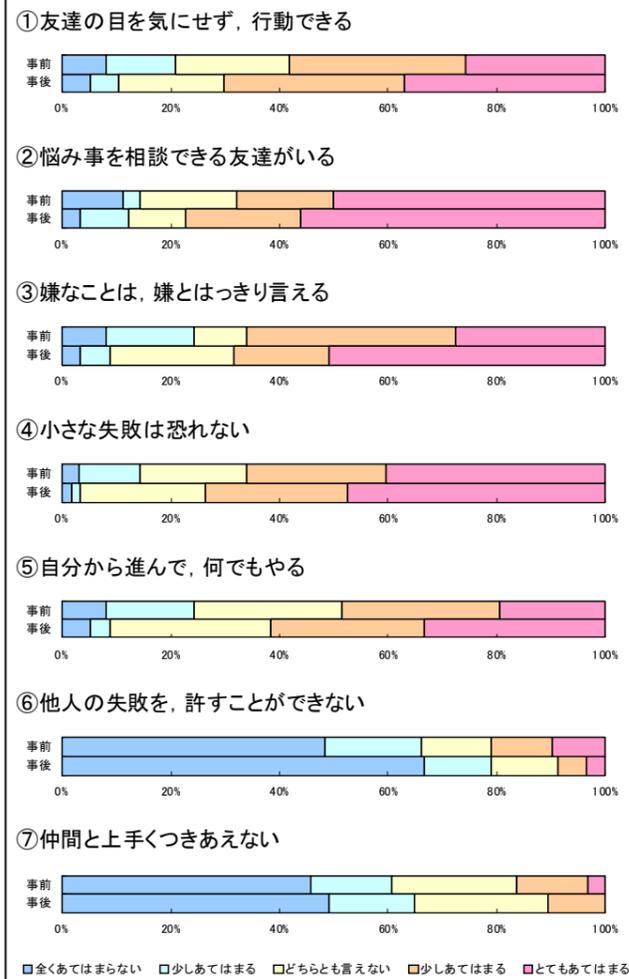
4月13日 参観授業、担任・校長との打合せ
5月1日 7月利用団体合同打合せ
6月30日 授業参観、保護者説明会、担任・校長との打合せ

全体指導者の関わり…平成20年度の養成者1名

「授業参観・保護者説明会」への参加
部分的な活動の指導(ツリーイング)
補助指導者として3日間参加(全体指導者の業務内容を研修)

テーマ: 自分の意志や考えを持ち、自ら行動できる力をほぐす				
	<1日目>	<2日目>	<3日目>	<4日目>
午前	入所式 ●ルールづくり1 (現状把握) 野外炊事 焼きそば	●経験を生かして グループのために 自分から行動する 野外炊事 カレー	●新しいことへの 挑戦 水辺の活動 ツリーイング (ロケーション)	退所式 ●初めて出会う農 家の方との交流の 中で、自分で考え て行動できる 農業体験 (百姓王国)
午後	●ルールづくり2 (自分の思い・考 えを聞いてもらえ る雰囲気づくり) 課題解決 ゲーム	●アイデアを出し 合し目標めざし て力を合わせる アドベンチャー・カ ンパニー & ウォーカー	●新しいことへの 挑戦 ツリーイング 水辺の活動 (ロケーション)	
夜	●感謝の思いを家 族へ伝える 家への手紙	●自然の神秘 を探る 天候観察	●仲間と関わった り表現できる キャンプファイ	
	活動の ふりかえり 班長会議	活動の ふりかえり 班長会議	活動の ふりかえり 班長会議	

アンケート



* 学校がテーマに合った評価項目を作成し、事前・事後の児童の変化をアンケートしている。



●広島県福山市立常石小学校 4・5年生 29名 平成22年8月24日～27日

当日までの流れ

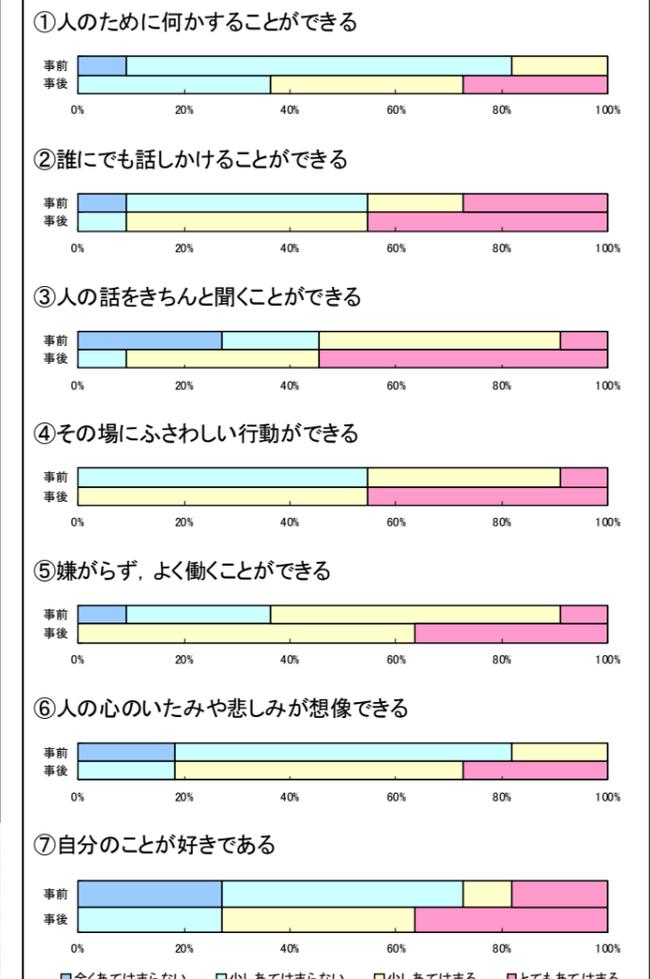
5月28日 参観授業、校長との打合せ
6月13日 8月利用団体合同打合せ
9月9日 事後指導

全体指導者の関わり…平成21年度の養成者1名

部分的な活動の指導(登山指導)

テーマ: リーダー性と協調性、自他を尊重する気持ちの育成				
	<1日目>	<2日目>	<3日目>	<4日目>
午前	入所式	●リーダーシップと フォロアーシップ 課題解決 ゲーム	●仲間と共に チャレンジ 大山登山	●思いを言葉 ・形に表す 焼き板 ●アイデアを出し 合って課題を解決 課題解決 ゲーム
午後	●ルールづくり (現状把握) 課題解決 ゲーム	●協力 アドベンチャー ・カッター	●仲間への 気づき 野外炊事 カレー	●3日間の学びを 発表する ボンファイヤー
夜	活動の ふりかえり 班長会議	活動の ふりかえり 班長会議	活動の ふりかえり 班長会議	

アンケート



* 学校がテーマに合った評価項目を作成し、事前・事後の児童の変化をアンケートしている。



○評価の活用

「楽しかった」「たくさんいろいろなことを経験できた」
「事故なく計画通りに実施できた」で終わってしまわないように！！

- ・ 学級の課題に対する成果として、その後の学級活動で活用している。
具体的には、クラスの状況に応じて「宿泊体験での学び」と「クラスの現状」を比較しながら、ふりかえりに活用している。
- ・ 子どもの成長を保護者に発信することで、学校教育と家庭教育の連携に活用している。
- ・ 次年度の学年・保護者に向けて宿泊体験の成果を発信することで、来年度に向けて意欲を高め、協力体制を築くために活用している。